

MINATO

たろう通信

こさい太郎(さきがけ・みなと)議員活動レポート

JUN.1996

号外

編集発行/さきがけ・みなと
〒107 港区南青山 6-13-4-605
TEL:5485/9111 FAX:5485/9100

新党さきがけの港区長選挙への対応について(事後報告)

去る6月2日(日)、みなさまご存知の通り、港区長選挙が行なわれました。今号外では、港区長選挙における新党さきがけの対応につきまして、ご報告させていただきます。

この度の区長選挙では、立候補された2候補のいずれにも推薦・支持等は行なわず、結果として自主投票という対応になりました。推薦・支持等を行なわないに至った経過は下記の通りです。

政策協定締結を前提に推薦するつもりでしたので、ぎりぎりまで正式回答を待ちましたが、ありませんでした。したがって、本来ならば選挙前にみなさまにご報告すべきでしたが、選挙後のご報告とな

らざるを得ませんでした。どうかお許しください。

なお、区長選挙に際し作成いたしました「政策協定書」ですが、今後の港区における新党さきがけの取り組みと捉えて頂ければ幸いです。今後とも、港区に新しい風を送り込むべく活動して参りますので、何卒よろしく願い申し上げます。

なお、返信用はがきを同封いたしましたので、是非ご意見・ご質問などをお寄せください。

港区議会議員(さきがけ・みなと)小齊 太郎

- ⌚ 4月下旬 菅谷眞一立候補予定者より、新党さきがけに対し、推薦依頼を正式書面で提出される。
- ⌚ 5月上旬 推薦依頼を請け、さきがけ東京(支部)にて討議を重ねる。その結果、政策協定(下記参照)を締結した上で推薦することを決定する。
- ⌚ 5月17日 政策協定書(案)を内容協議に応じる旨を伝えた上で、菅谷立候補予定者に提示する。
- ⌚ 以来、正式回答はありません。

政策協定書(案)

来たる東京都港区長選挙にあたり、さきがけ東京と菅谷眞一港区長選挙立候補予定者は下記の政策協定を締結し、その実現を目指すことを確認した。

1. (行財政改革)

区政においては、民主性・公開性・透明性を常に尊重すると共に、次に列記する項目をはじめとする行財政改革を遂行し、区民への過大な負担を軽減させる簡素で効率的な区政運営を実現する。

- ① 経常経費の徹底した削減を図る。特に職員数に関しては、抑制の概念を排し、新たに数百名規模の具体的な削減計画を早急に打ち出す。
- ② 不公平感の強い直接的住宅供給を抜本的に見直し、民間優良住宅の誘導等のソフト面の施策への移行を図る。
- ③ 財政負担の大きい、公共施設の建設による供給を最小限にとどめ、既存施設の複合利用や民間施設との共用など、公共施設配置の発想の転換を図る。

2. (情報公開)

区政は区民が主人公であるという基本認識に立ち、個人情報等の特定の情報を除き、あらゆる行政情報を積極的に公表する。

3. (地方分権)

特別区制度改革を積極的に推進する。清掃事務事業等の移管にとどまらず基礎的自治体を最終目標とし、その実現に向け努力する。

4. (福祉)

福祉は個人に対して給付されるのが原則であり、団体

に対する補助金・助成金については大幅に見直す。

5. (教育)

画一化した学力偏重の教育から個性重視の教育への転換を進め、学校・地域・家庭の連携のもとに、他人を思いやる心を持ち、自立と責任の精神を備えた将来世代を育成する。

6. (環境)

限りある地球環境を将来世代に継承するために、水や緑の保全・省資源化の促進・循環型社会の構築をはじめ、地球にやさしい区政を実現する。

さきがけ的行動を超党派へ

代表幹事 鳩山 由紀夫

先日私が新進党の船田元氏や弟の邦夫と懇談したことが新党問題として報ぜられ、さきがけの支持者の皆さまにはご心配をおかけしてしまいましたことをお詫び申し上げます。新党となれば、しかもさきがけの代表幹事の発言となると、一体さきがけはどうなるのだと案じられた方も多かったのではと申し訳なく存じます。

さきがけはもともと政界再編の旗振り役として三年前自民党を離党してつくられた政党です。いまだに再編は道半ばであり、細川総理誕生のときの国民の期待感はまだ潜在的に大きく存在しているとは感じながら、わが党の歩むべき道は決定されてはおりません。

さまざまな思いが交錯する中、皆が共通に理解していることは、菅直人厚相が率先している民権政治、国益以上に地球益、大量生産・消費・廃棄社会より質実国家というさきがけの旗は今後ともさらに発展させていくこと、そのためには小選挙区比例代表並立制という小党に不利な制度下でも十分に闘い得る基盤をつくること、したがって、さきがけの理念が反映されるような幅広い政治勢力の形成の可能性を追求することです。

政治の閉塞状況を内から解決する道として、政党間の合併は選挙対策とみなされ適していません。ちょうどさきがけが一人ひとりの決断、すなわち志、で結成されたように、いま再びさきがけ的行動が求められているのです。選挙を恐れず、志や政策・理念の共有の下に一人ひとりの政治家が既成の欲望の殻を破る時が訪れているのです。

自己の確立が望まれている時代に、尊厳を最も失ってしまった政治家が、何とか自分の翅で飛ぼうとして

います。ごちなさはあるかもしれませんが、そこに真摯な姿を見出して頂けると、政治は市民の手に戻ると思います。その流れは党の垣根を越えて起こさねばなりません。さきがけが役割を任じながら、さきがけ的行動を超党派に拡げることこそ蛹から美しい蝶への脱皮であると信じています。

新党さきがけ機関紙・通信さきがけ4月号
(4月15日発行)より全文掲載

こさい太郎の感想

この記事は約1ヶ月半前のものです。その後今日に至るまで報道され続けてきた、いわゆる「鳩船新党問題」の初期段階における鳩山由紀夫さんの基本的なスタンスといえます。今でこそ多くのメディアによって報道されていますが、この文章から、市民本位の民権政治を確立するために、政党やグループの連合ではなく、一人ひとりの政治家の決断と実行によってのみ新しい政治勢力を結集することができる、という思いが伝わってきます。

前々号のたろう通信で「新党さきがけの今後と第3極結集についての考え方」ということで私の意見を掲載いたしました。その考え方は今も変わっておりません。そして、鳩山さんのような考え方にこそ賛意を表することができます。

私は、港区議会議員として、港区政においてもこのような志で取り組まねばならない、また、新しい政治の流れをつくるべく最大限の努力をしなければならないと強く思っています。